

変化を楽しみむマインドを持ち、 学校を超えて生徒も教師もつなげたい

福岡県立福岡高校 深江一美

外に出て人間性を広げ、
教師としての魅力を高める

福岡県の公立高校で教師を務める私は、2019年度の1年間、研修として北海道の私立札幌新陽高校に勤務しています。同校では、授業や担任を持たず、会議や学校行事等に参加したり、視察目的の来校者と教育課題について意見交換をしたりしています。加えて、道内の高校や教育委員会、企業等の視察もしています。

20年度に福岡に戻って取り組もうと考えているのは、地域や学校を超えて教師や生徒をつなげることです。外に出ることで自分や所属組織を客観視でき、本質や価値を見直せるとよく言われますが、私はそれをもつて経験しました。学内外で出会った人々は、私の出身大学や勤

務校を気にも留めずに接してくれました。先入観がない代わりに、どんな教育活動をしてきたのか、授業で重視することは何かといった実践や教育観を聞かれ、それで私という教師が判断されました。そうした中で、私の軸は大学院に進学してまで追完した文学にあり、人生を豊かにする文学の面白さを生徒に伝えたいという、私が教師を志した原点を改めて見つめ直すことができました。

また、1つの組織に長くいると、自分の同じ面しか出せなくなるものです。教師の場合、教室で生徒に見せる面ばかりを磨いてしまうことなどがその一例です。それでは人間的な広がりがなく、面白みのない教師になってしまいます。教師はもつと外に出るべきだと思います。

SNSを利用すれば、遠隔地の人との連絡も容易ですし、学校を通じ

た出会いであれば安心・安全です。様々な学びを生み出す他者とのつながりを、教師にも生徒にも広めたいです。私自身も他者とのつながりを広げていきたいと思っています。

道内の様々な学校を見る中で、理想の学校は自然とできていくのではなく、自分たちで模索し、創るしかないといった覚悟もできました。

札幌新陽高校は、民間企業から転身した荒井優校長が、大胆な改革で廃校寸前から立て直し、生徒主体の学びを実現している学校として全国から注目されています。特に、探究コースでは、生徒自身が自分に必要なことを考えて学び、問題解決型学習に取り組んでいます。校外のビジネスコンテスト等では上位に入りますし、他校からは「発想力や提案力がある」と評価されます。そうした学びが、今後一層求められるのだと

◎教職歴15年。国語科 探究学習担当。同校赴任7年目となる2019年度の1年間、札幌新陽高校で長期派遣研修中。

◎福岡県立福岡高校/全日制・普通科・共学・1学年約400人/東京大や京都大など、国公立大に例年200人余りが合格する進学校。

実感します。一方で、自分には知識が乏しく、考えを深め切れていないと悩んでいる生徒もいます。そうした生徒を見ると、自律的な学びを支えるためには、知識を体系的に与える場も必要ではないかと考えます。どうすれば、生徒のよりよい成長に寄与できるのか。教師自身が考えて実践することでしか、最適解は得られないのだと分かりました。

今後も、社会は加速度的に変化すると言われています。不安をあおる風潮も見られますが、生活が便利になったり、新たな職業に挑戦できたりといった、様々な可能性への期



「学校教育デザイン」を描く今と未来



札幌新陽高校では、2019年度に職員室を改装。用途に応じた3つのゾーンに分け、教師・生徒・来校者が交流しやすい場所にした。

越境した学びをともにして

待も高まっています。変化すると分かっていながら、それを前向きに捉えたいですし、生徒にはどんな状況も楽しめる大人になってほしいと考えています。そして、生徒がそう

異分子が多いからこそ学校は活性化する

北海道・私立札幌新陽高校 校長 荒井 優ゆたか

「出会いと原体験」を積み重ねていく場所、それが学校だと私は考えています。自身の知的好奇心を発見し、自分なりに深め、価値観や将来像を見いだしていく。学校の役割は、生徒をその入り口に導くことです。だからこそ、学校を地域や企業等に開放し、多様な異分子が行き交うようになっています。福岡県教育委員会から深江先生の派遣を打診された際にすぐに了承したのも、北海道とは全く異なる地域の公立高校の教師が来たら、本校の教師も生徒もこれまでとは違う学びが得られると考えたからです。

私自身は、上場企業に就職して、自分なりに努力し、複数の企業で要職を務めるまでになりました。しかし、それが成功だという価値観は、東日本大震災の復興事業にかかわる過程で一変しました。地域に根づいて生きてきた人々が悲惨な現状を受け入れ、力強く前を向いて歩いてい

したマインドを持てるよう、私自身、どのような教育が求められても、生徒と一緒に自分も成長できるチャンスなのだと思え、変化を楽しむ教師であり続けたいと思います。

る姿を見て、生きる力とは何かを深く考えさせられました。そんな折に、祖父が創立した本校の立て直しを父から依頼されたのです。私の異なる環境での出会いと原体験は、今の学校づくりに生きています。

深江先生が北海道で学んだ成果が問われるのは、福岡に帰ってからでしょう。それは、ともに学んだ本校の教師にとっても同じことであり、両者の今後に期待しています。

◎民間企業を経て、2011年7月、公益財団法人東日本大震災復興支援財団専務理事に就任し、復興支援に尽力。福島県立ふたば未来学園中学校・高校の設立にも参画。16年2月、札幌新陽高校の校長に就任。

◎北海道・私立札幌新陽高校／全日制・普通科・共学・1学年約400人／「本気で挑戦する人の母校」をスローガンに、学校改革を推進。長年続いた生徒減少を解消し、大学進学率は6割に増加した。2018年度、探究コースを設置。